2018 年度　ＦＤ活動報告

現代システム科学域　知識情報システム学類

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

FD 活動単独での委員会などを開催してはいないが、毎月の学類会議において、カリキュラム検討やアンケート結果に対する意見交換を行っている。

２　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数
11 月 26 日	第 1 回内部質保証に関する研修会「内部質保証の実質化に向けて」	セミナー	43
1 月 21 日	第 2 回内部質保証に関する研修会「JABEE 認定による教育の経験に基づく内部質保証への取組みについて」	セミナー	17
2 月 21 日	第 3 回内部質保証に関する研修会「内部質保証とカリキュラム改革」	セミナー	23

※参加者数は現代システム科学域教職員の合計

３　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数

４　ＦＤ活動への各教員の参加状況

※　前項のセミナー･委員会等への参加の他、教授会後に実施している勉強会等への出席や、分野内で成績分布について確認・検討する機会を設けている場合なども含みます。

教員数（実数）	16 人　／　16 人中

５　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期	25	2	
後期	11	0	
年度合計	36	2	

６　その他取り組みの具体的実施状況

１．知識情報システム演習 II のポスター発表の実施

1 月 22 日（火）Ⅲ・Ⅳコマ　学術交流会館多目的ホールにてポスター発表を実施した．質疑応答が偏らないように教員に割り当て、前半・後半の 2 部構成で行い、質疑応答内容をレポートとして提出させた。

２．卒業研究の発表会の実施

2 月 12 日（火）口頭発表による発表会を実施した。一人当たり 8 分の発表と 2 分の質疑応答を設けた．全体を 2 つのグループに分けてパラレルで実施した．

３．知識情報システム学類演習Ⅳの配属方法の変更

配属のミスマッチによる問題を減少させるため，現行の配属方式を修正し，2 段階希望調査方式に変更した．中間アンケートを取り，事前に他の学生の意向がわかるようにした．研究室説

明会を合同形式にして学生と研究室の交流促進を図った.

４．知識情報システム学類演習 III の系再編成

現行の系（システム系，社会科学系，教育情報系，ネットワーク系，ヘルスケア系）を再編成した（人工知能系，社会科学系，ヘルスケア系，情報ネットワーク系）

2018 年度　ＦＤ活動報告

現代システム科学域　環境システム学類

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

２の FD 活動は学域全体で行い、環境システム学類の FD 活動は個別の委員会で行わず、学類会議や課程会議において、授業の進め方や学生発表会の開催方法などについて協議を行ってきた。詳細は６に記している。

２　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数
11 月 26 日	第 1 回内部質保証に関する研修会「内部質保証の実質化に向けて」	セミナー	43
1 月 21 日	第 2 回内部質保証に関する研修会「JABEE 認定による教育の経験に基づく内部質保証への取組みについて」	セミナー	17
2 月 21 日	第 3 回内部質保証に関する研修会「内部質保証とカリキュラム改革」	セミナー	23

※参加者数は現代システム科学域教職員の合計

３　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数

４　ＦＤ活動への各教員の参加状況

※　前項のセミナー･委員会等への参加の他、教授会後に実施している勉強会等への出席や、分野内で成績分布について確認・検討する機会を設けている場合なども含みます。

教員数（実数）	30 人　／　67 人中　（6 その他取り組み 3 の 2 回の合計）

５　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期			
後期			
年度合計			

６　その他取り組みの具体的実施状況

１．「環境システム学演習Ⅰ・Ⅱ」では、学生全員による発表会に全教員が参加することで、提示された成果への確認とさらなる示唆が、複数の教員から学生に直接与えられている。また、「環境共生科学入門」「社会共生科学入門Ⅰ・Ⅱ」などでも、連続的かつ多様な内容が学べるよう、複数の担当教員が連携しながら授業を進めてきた。

２．卒論研究発表会では多数の教員が学生の発表に対して示唆、コメントを行なった。

３．学期ごとに成績に疑問のある学生に対し、話を聞くかどうかの判断を学類長、教育運営委員及び各学年のアドバイザーで判断を行ない、必要と判断した学生をアドバイザーが個々に呼び出し、状況を聞くとともに必要な指導を行った。その指導内容の概略及び情報共有する方法について学類内で議論を行い、実施した。
４．危険を伴う自然科学系の実験で安全教育の資料を作成し、安全教育を行なった。
５．forQs システムを用いた内部質保証のあり方について検討し、forQs システムの設計・実装を行なった。
６．人間環境科学課程において、3 年次・4 年次の卒業研究の指導の一環として 3 年生から院生まで含んだ合同の中間発表を教員全員で行なった。

2018 年度　ＦＤ活動報告

現代システム科学域　マネジメント学類

１　ＦＤ活動の実施体制、取り組みの概要

･マネジメント学類教育運営委員会が主体となり、マネジメント学類全体の FD 活動を実施している。

･マネジメント学類教育運営委員会では、ピア授業参観の運営、カリキュラムの改善などを行っている。

２　ＦＤに関する講演会、セミナー、ワークショップの開催状況

開催日	内容（タイトル）	種別	参加者数
11 月 26 日	第 1 回内部質保証に関する研修会「内部質保証の実質化に向けて」	セミナー	43
1 月 21 日	第 2 回内部質保証に関する研修会「JABEE 認定による教育の経験に基づく内部質保証への取組みについて」	セミナー	17
2 月 21 日	第 3 回内部質保証に関する研修会「内部質保証とカリキュラム改革」	セミナー	23

※参加者数は現代システム科学域教職員の合計

３　ＦＤに関する会議、委員会の開催状況

会議・委員会名	内容	回数	委員数
マネジメント学類教育運営委員会	マネジメント学類全体の FD 活動を企画、実施	10	10

４　ＦＤ活動への各教員の参加状況

※　前項のセミナー･委員会等への参加の他、教授会後に実施している勉強会等への出席や、分野内で成績分布について確認・検討する機会を設けている場合なども含みます。

教員数（実数）	29 人　／　　29 人中

５　ピア授業参観実施状況

期間	公開授業数	参観者数	特記事項
前期	53	1	マネジメント学類と経済学研究科においては、学類か研究科どちらかの授業にピア授業参観すれば良いものとしている。
後期	60	6	
年度合計	113	7	

６　その他取り組みの具体的実施状況

・　「成績評価ガイドライン」（現代システム科学域として統一）と経済学部「成績評価ガイドライン」を確認し、説明した。

・　学生の視点に立ちシラバスを活用する方策等に関する授業運営課題と教育改善事例の共有を行った。

- 全学的な教育改革専門委員会におけるシラバスの活用及び時間外学習に関する議論を踏まえ、学部・学類における関連課題を、マネジメント学類及び経済学部教育運営委員会の場を中心に議論した。毎年のように公認会計士試験現役合格が認められていることがその一端を示すように、マネジメント学類及び経済学部では授業運営での成果が見られるが、さらなる授業改善をめざし、進路状況や授業内容などを鑑みた個別の事情を全学的な観点から再検討した。経済学等の社会科学の大人数授業と理工系の少人数の実験との違い、卒業論文の位置づけ、期末筆記試験の実施、教育改革専門委員会アンケートの妥当性や対応などを検討した。
- 授業評価アンケートへの積極的参加の学生に対する呼びかけ、並びに各教員によるアンケートの分析とコメントを促進した。
- 卒業論文のあり方及びその書式について検討した。
- 年間の GPC 統計に基づいて、履修推奨科目の成績評価のあり方に関する検討を行った。
- マネジメント学類のカリキュラムの再検討を実施した。
- マネジメント学類の次年度カリキュラムに沿った FD 活動を検討した。
- マネジメント課程と経済データサイエンス課程の新設にあたって、カリキュラムや教育運営上の問題点等を徹底的に検討した。
- マネジメント課程と経済データサイエンス課程の課程選択に関するアンケートを行い、経済データサイエンス課程の志望者が少ない問題の原因を検討した。その議論を踏まえて、一定の改善がなされた。
- マネジメント課程と経済データサイエンス課程に関するガイダンスを行った。
- 経済データサイエンス課程の内容を学生に周知するために座談会を行った。
- マネジメント演習 I の選考方法について検討をおこなった。
- 国際社会で通用するコミュニケーション能力を身に付けるという観点から、英語の新科目開設について検討した。